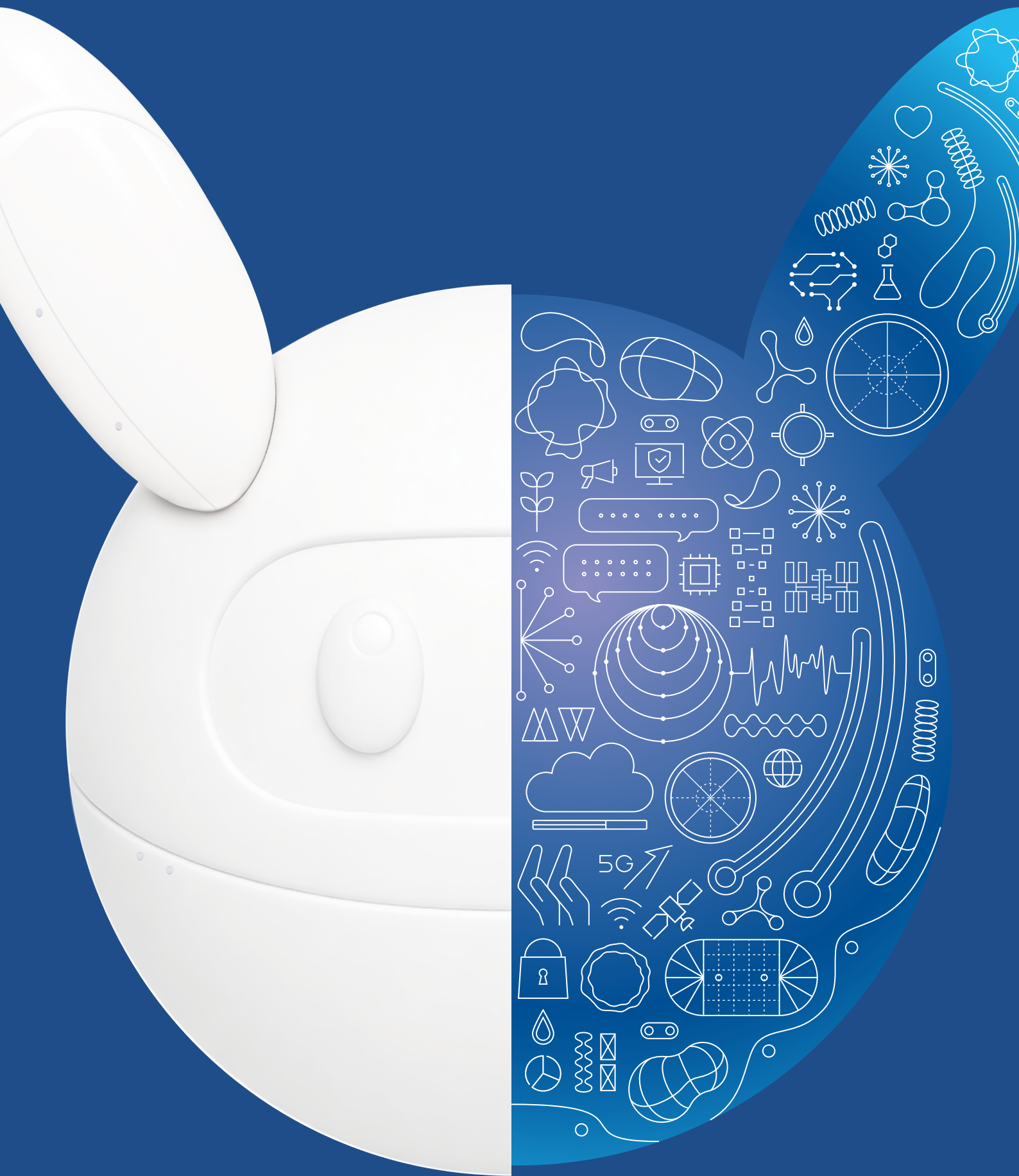


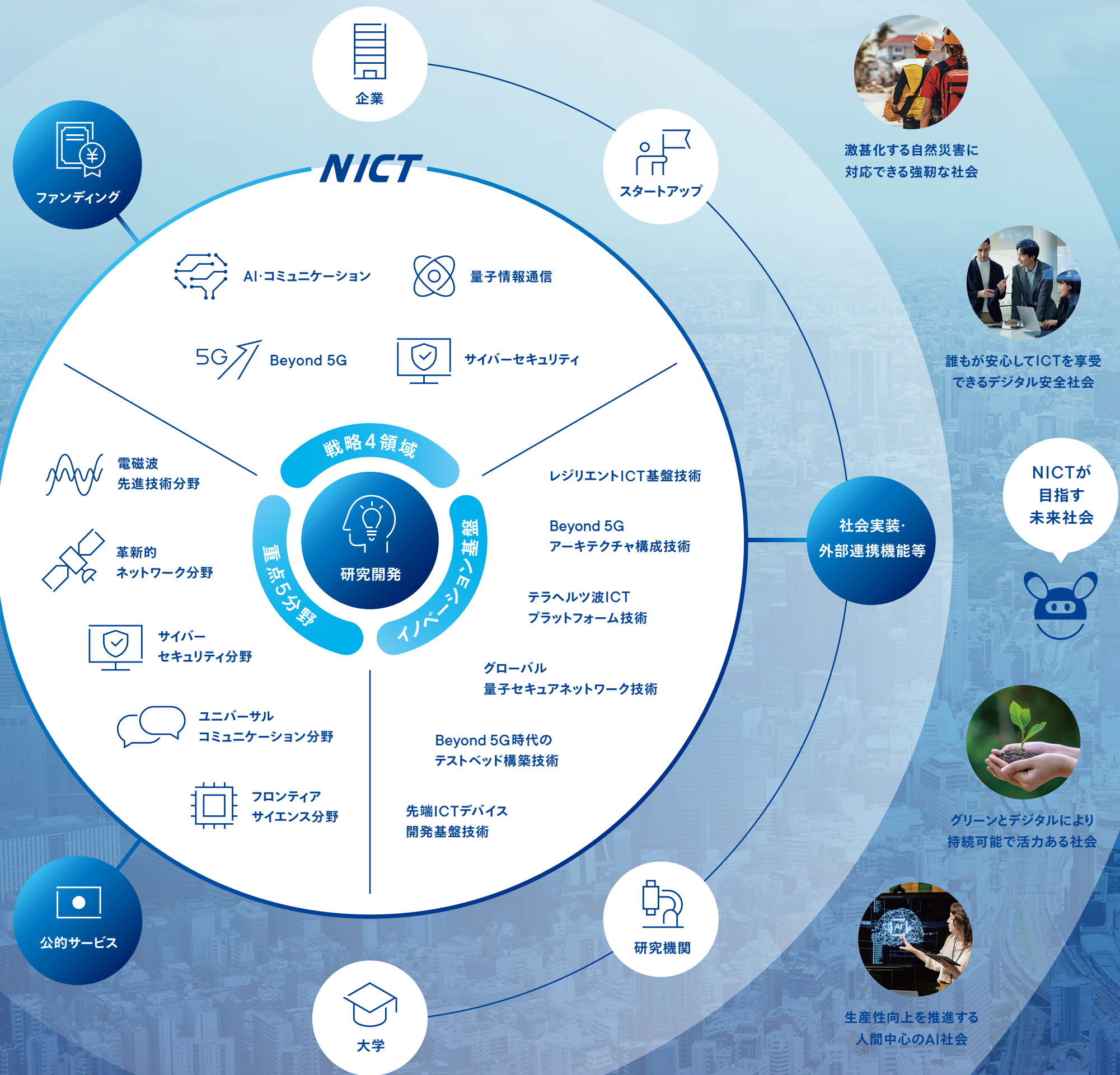


国立研究開発法人

情報通信研究機構

National Institute of Information and Communications Technology





研究開発
ファンディング
公的サービスで
未来の社会基盤を創る
イノベーションプラットフォーム

NICT

国立研究開発法人情報通信研究機構 (NICT) は、情報通信分野を専門とする我が国唯一の公的研究機関として、情報通信技術の研究開発を基礎から応用まで一体的に推進するとともに、大学、産業界、自治体、国内外の研究機関との連携を通じて、その成果を社会へ還元し、イノベーションの創出に取り組んでまいりました。

第6期中長期計画 (令和8年4月～13年3月) の下、AI・コミュニケーション、Beyond 5G、量子情報通信、サイバーセキュリティの戦略4領域を一体的に推進し、「研究開発」、「ファンディング」、日本標準時などの「公的サービス」を横断的に推進してまいります。その際に重要となるのは、個別技術を俯瞰し、全体を設計・統合する「アーキテクト視点」、世界で何が起きているかをいち早く捉える「インテリジェンス機能」、急激な環境変化へ柔軟かつ迅速に対応する「アジリティ (機動性)」です。これら三つを有機的に組み合わせることで、我が国の情報通信を支える中核拠点としての役割を果たしてまいります。また、情報通信における研究開発の「ハブ」として、産学官の多様な主体が集い、共創が生まれる「イノベーションプラットフォーム」を構築することを目指します。

今後もNICTは、情報通信を通じて我が国の「自律性」と「不可欠性」に貢献するとともに、社会の安心・安全と持続的発展に寄与すべく、変化を的確に捉えながら、戦略的かつ柔軟に挑戦を続けてまいります。関係の皆様におかれましては、引き続き格別のご理解とご支援を賜りますよう、心よりお願い申し上げます。



国立研究開発法人
情報通信研究機構
理事長 **大野英男**

01

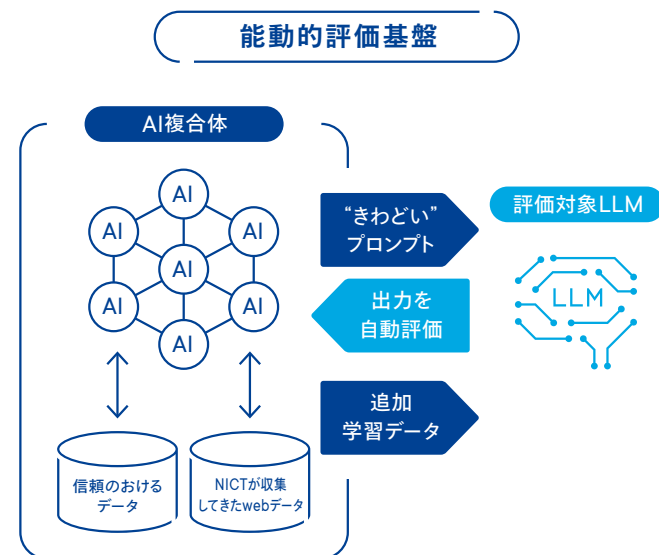


AI・コミュニケーション

日本の文化・習慣や安全性などの観点で
AIを評価・改善

NICTでは、「能動的評価基盤」という仕組みを研究開発しています。これは、自然な文章を理解・生成するAI＝大規模言語モデル「LLM」の信頼度を、様々なAIを組み合わせた「AI複合体」によって評価するシステムです。

LLMの弱点や問題点を明らかにするために、AI複合体は「日本固有の文化・習慣などを考慮できているか、安全な振る舞いをするか」



といった観点で「きわどい」プロンプトを自動生成してLLMに入力し、その出力を自動評価します。

さらに、評価結果に基づいて対象のLLMをより信頼できるものに進化させるための追加学習データを自動生成し、提供します。この能動的評価基盤を社会実装することで、日本における信頼できるAIの活用に貢献します。

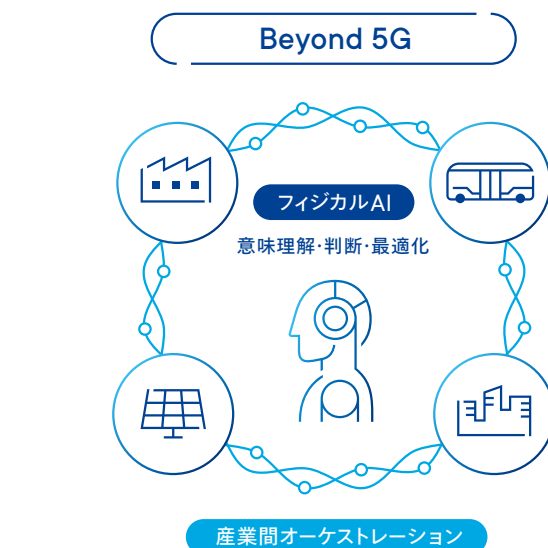
02



Beyond 5G

産業横断アーキテクチャにより
持続可能で強靱な社会へ

5Gの先にある次世代情報通信「Beyond 5G」の時代には、「フィジカルAI(物理的なロボットや機械とAIの高度な融合)」が現実世界の意味理解・判断・最適化を担い、分野横断的な価値創出を加速します。NICTは、信頼性・安全性を備えた通信基盤と産業間オーケストレーション技術を軸に、異業種協創による持続可能で強靱な社会の実現を目指します。



さらに、「Innovation Bridge@TOKYO」を核に、産学官やスタートアップを含む多様なプレイヤーの協創、グローバル連携、社会実装・標準化を一体的に推進します。また、「Beyond5G(6G)基金事業」による産学の研究開発の支援・研究開発投資の促進を通じて、Beyond 5G時代のイノベーション創出エコシステムを牽引しています。

03

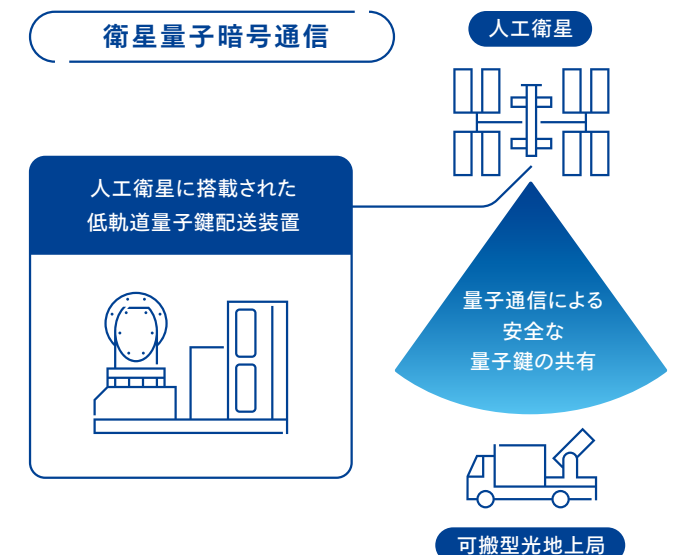


量子情報通信

量子力学を応用した
安心・安全な通信を構築

量子情報通信技術とは、私たちが日常で経験する物理法則とは異なる「量子力学」を活用した情報処理技術です。量子コンピュータの実用化が迫る中、「どんな計算機でも解読不能＝安心・安全な」量子暗号通信には大きな注目が集まっています。

世界トップレベルである日本の量子暗号通信の中核を担うNICTでは、量子光学や量子情報理論の基礎研究、そして次世代の量子情



報通信の研究開発を行っています。

さらに、量子暗号通信や、その応用である量子セキュアクラウド(データの安全な保管技術)の早期社会実装のために、複数の企業・機関・組織を結ぶ量子暗号ネットワークの構築、人工衛星を使った量子暗号の研究開発、国際標準化の推進、量子人材の育成を実施していきます。

04



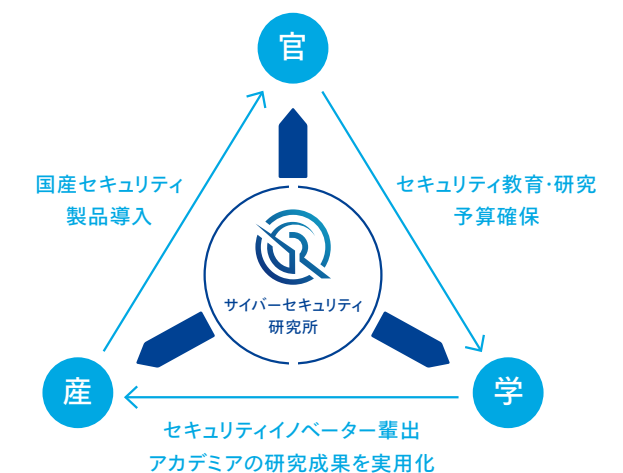
サイバーセキュリティ

日本のサイバー攻撃対処能力を向上

サイバーセキュリティは、進化を続けるサイバー攻撃から国民生活、企業活動、国家の安全を守る研究領域です。

NICTは、多種多様なサイバー攻撃の一次情報を収集・分析し、有効な対策導出に向けた研究開発を推進しています。特に、AIによるセキュリティ対策の高度化(AI for Security)とAI自身の安全性確保(Security for AI)、大規模な量子コンピュータでも解読困難な耐

サイバーセキュリティのエコシステム確立



量子計算機暗号の研究開発に注力し、政府などで利用される暗号方式の安全性評価にも貢献しています。

さらに、セキュリティ人材育成や産学官連携を通じ、我が国のサイバー攻撃対処能力とセキュリティ自給率の向上に資するエコシステム形成を目指しています。



01



電磁波先進技術分野

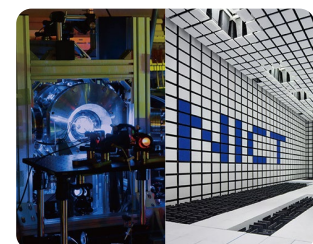
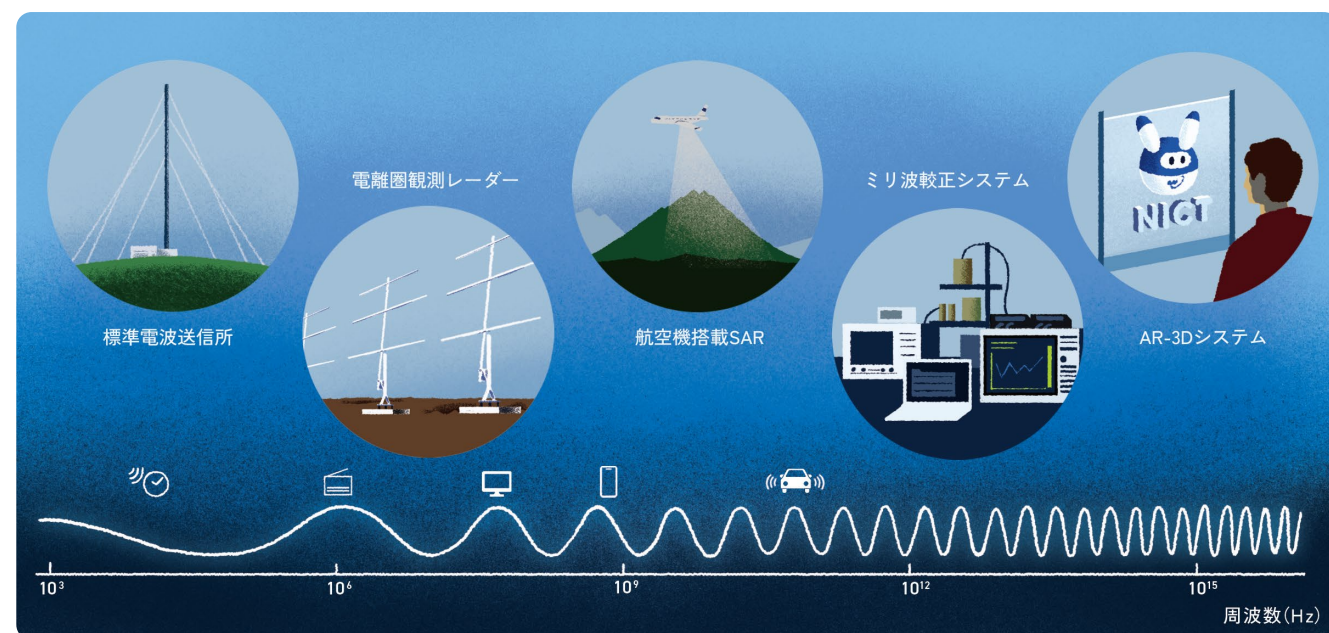
リモートセンシング技術／宇宙環境技術／電磁環境技術
時空標準技術／デジタル光学基盤技術

電磁波研究所

電磁波を知り、活用し、安心・安全な社会基盤へ

電磁波研究所は、電波や光などの「電磁波」に関する研究開発と法定業務（公的サービス）を一体的に推進し、安心・安全な社会基盤の構築に貢献しています。時空標準技術及び電磁環境技術では、電磁波の振る舞いを精緻に把握し、標準電波や日本標準時の提供など社会の根幹を支える時空標準の維持・高度化を実現するとともに、電磁両立性の確保や無線設備の点検などに用いる測定器の較正を通じて、電磁波利用の安全性と信頼性の確保を推進しています。

リモートセンシング技術では大気や地表面の高精度観測とデータ分析に基づく予測を通じて、防災・減災に資する基盤技術の確立に取り組んでいます。宇宙環境技術では、太陽などの宇宙環境の観測と予測技術を基に、宇宙や地上での電磁波の安定利用や通信・測位などの社会基盤を支える技術の確立に取り組んでいます。デジタル光学基盤技術では、光の屈折と回折を活用し、光通信の高度化や革新的な計測・可視化技術の実現に向けた研究開発を進めています。



社会基盤を支える
電磁波技術

最先端の原子時計技術により高精度な標準時生成と空間計測技術の研究を推進。また、電磁両立性の確保により多様な電磁波利用の安全性・信頼性を支える。



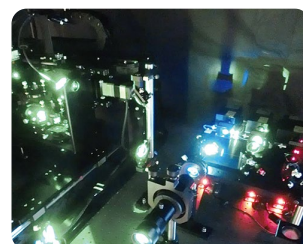
電波と光を使って
大気や地表を観測

豪雨の高精度予測や災害時の地表面観測、衛星レーダーによる地球環境監視など、地球環境計測を支えるリモートセンシング技術の研究開発を推進。



監視・予測で
宇宙天気を読み解く

宇宙環境の監視技術及び予測・警報技術の高度化を通じて、通信・測位・航空・衛星運用などの社会基盤の安定利用や、宇宙・地上での電磁波の利活用に貢献。



ホログラフィック光学素子の
作製と応用

ホログラフィック光学素子や機械学習を用いた光学設計により、光波の測定・制御技術を高度化し、光通信やAR/VRなどへの応用研究を推進。

02



革新的ネットワーク分野

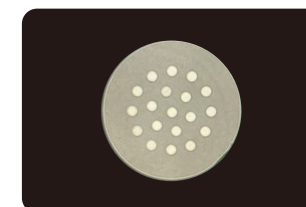
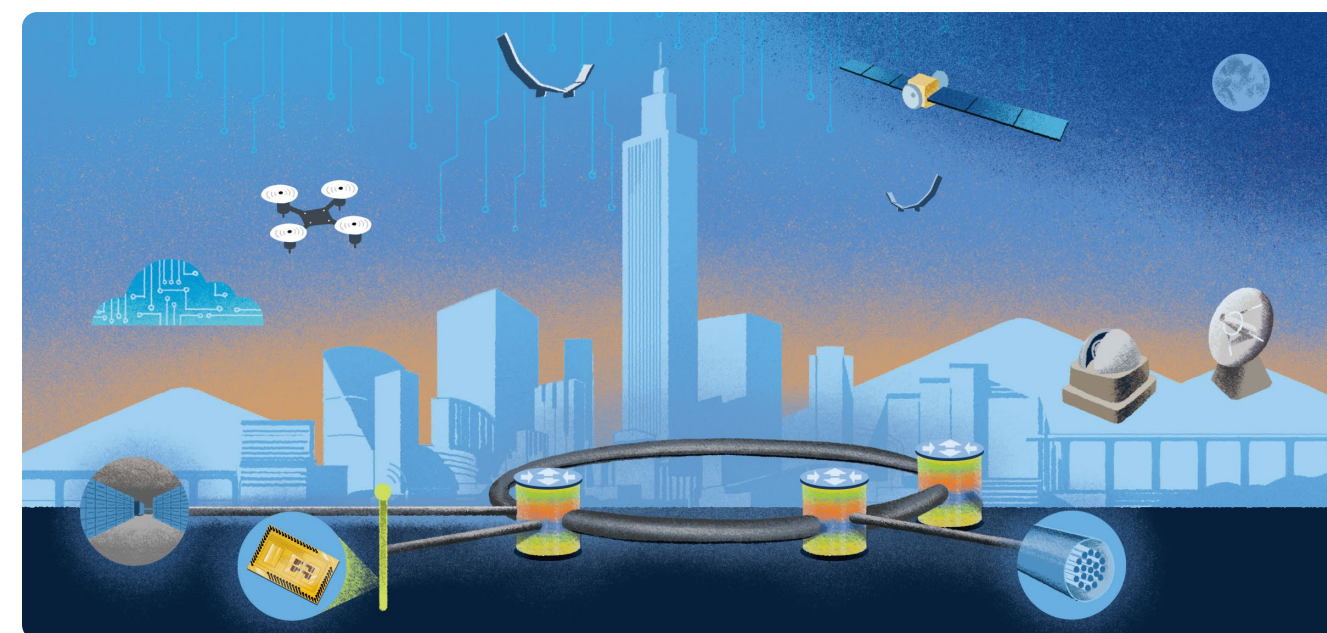
ネットワークアーキテクチャ技術／フォトニックネットワーク基盤技術
光・電波融合アクセス基盤技術／次世代ワイヤレス技術／宇宙通信基盤技術

ネットワーク研究所

広く、速く、確実なネットワークで安心・快適を届ける

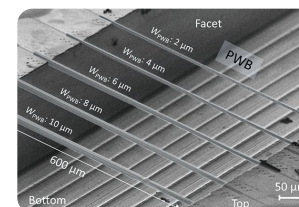
ネットワーク研究所では、地上から宇宙までを広くつなぎ、高速かつ確実に情報やデータが届くことを目指し、持続可能で強靱な安心・快適を届ける、5つのネットワーク基盤技術を研究開発しています。
①通信とコンピューティングやAIを融合させ、高い信頼性のもと広域なネットワークを自動的に構成し、柔軟に維持・拡張するネットワークアーキテクチャ技術／②将来の通信量需要を満たすだけでなく、光ネットワークの有効活用や安定運用、通信機能維持を目指すフォト

ニックネットワーク基盤技術／③極小デバイスへの機能の集積・融合により、省電力化や高効率な資源利用を実現し、高信頼なデータ伝送を可能とする光・電波融合アクセス基盤技術／④限られた周波数資源を無駄なく・賢く使い、高い効率性と信頼性を兼ね備えた将来の無線システムの基盤を構築する次世代ワイヤレス技術／⑤地上から宇宙までの広域ネットワークの拡張性と高速性を高め、いつでもどこでも通信が途切れないようにする宇宙通信基盤技術



標準外径19コア
光ファイバ

標準外径19コア光ファイバと光中継増幅技術により、毎秒1ペタビット・1,800kmの大容量かつ長距離の光ファイバ伝送を可能にし、将来の通信需要を支える光通信インフラの実現に貢献。



3次元集積光デバイス

光硬化性樹脂を用いた3次元描画技術により、異種光デバイス間を高精度かつ低損失に光接続する高密度3次元集積が可能に。これにより、集積光デバイスの高機能化や応用分野拡大が期待されている。



2m光地上局

鹿島宇宙技術センターにある2m光地上局は、一枚鏡として日本最大の口径を生かし、月との光通信などの超長距離通信を実証する光アンテナとして活用されている。



次世代ワイヤレス
評価基盤

人や物の移動、建物による遮蔽、電波同士の干渉など、地上での様々な電波の伝わり方を高精度に再現し、次世代無線システムを総合的に検証。

03



サイバーセキュリティ分野

サイバーセキュリティ技術／AI×サイバーセキュリティ技術
次世代暗号・プライバシー保護技術／サイバーセキュリティに関する演習
サイバーセキュリティ産学連携の推進／IoT機器のサイバーセキュリティ対策の促進

サイバーセキュリティ研究所

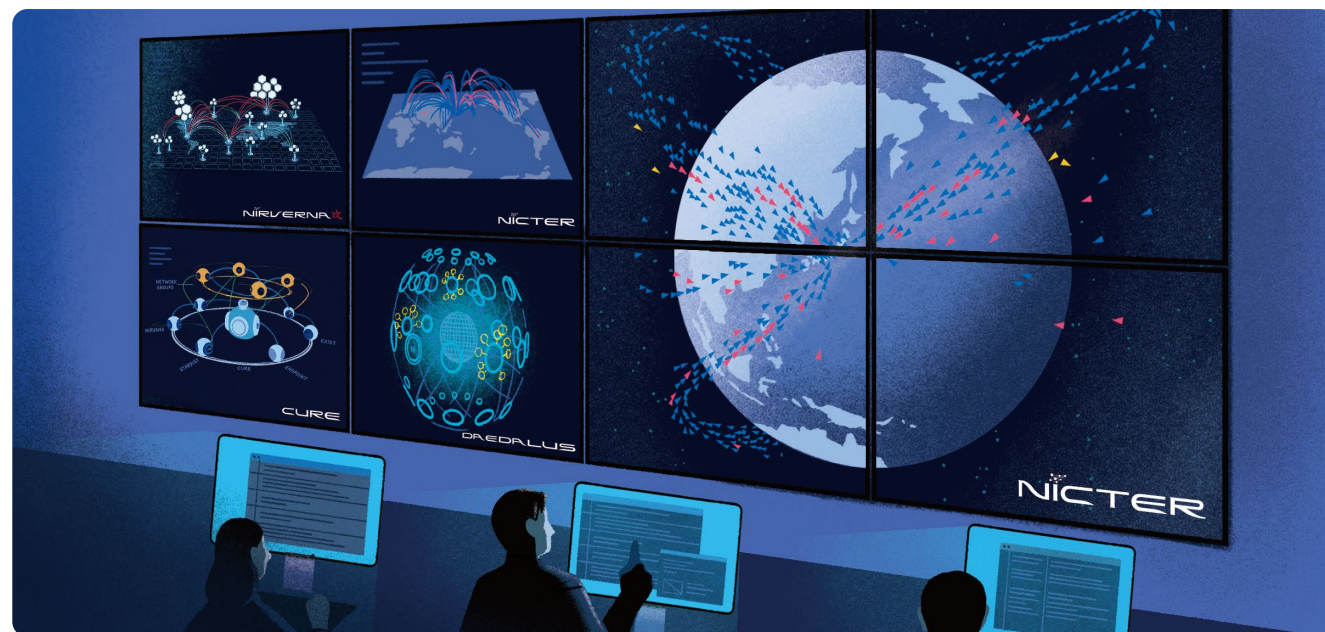
サイバー攻撃から日本を守る、未来を守る

サイバーセキュリティ研究所では、サイバーセキュリティを取り巻く環境の変化や近年の動向を踏まえ、サイバー攻撃の脅威の把握から対策技術の開発まで一貫した研究開発を推進しています。

サイバー攻撃の観測・分析を基盤とした可視化や対策の自動化などの実践的な技術の開発、AIを活用したセキュリティ対策 (AI for Security) の高度化、AIそのものを守る技術 (Security for AI) の研究開発を推進。さらに、量子コンピュータ時代を見据えた耐量子計算機暗号

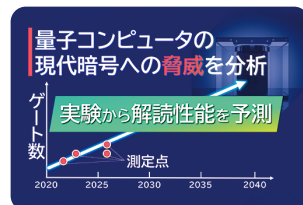
の研究開発や安全性評価など、情報セキュリティの基盤技術を強化。加えて、脆弱なIoT機器の調査・注意喚起を通じた対策の推進、セキュリティ人材の育成に取り組んでいます。

また、産学官の結節点として、最新のサイバー攻撃分析結果の公表、人材育成のための共通基盤の提供、国産セキュリティ製品の評価などを通じて、人材・技術に関するエコシステムを形成。日本のサイバー攻撃対処能力の強化とセキュリティ自給率の向上に貢献しています。



サイバー攻撃の今をリアルタイムに捉える

多様なサイバー攻撃の観測・分析・可視化や、国内外の様々な機関から発信される脅威情報の収集・分析を通じて、我が国独自のサイバー攻撃実態把握に取り組んでいる。



暗号研究で量子時代の脅威に挑む

安全な暗号基盤技術の確立に向け、耐量子計算機暗号を含む次世代暗号やプライバシー保護技術などの研究開発と安全性評価を進めるとともに、国内で広く利用される暗号の維持・管理を実施。



IoT機器のサイバーセキュリティ対策

IoT機器のサイバーセキュリティ向上に向け、脆弱な機器やマルウェア感染機器の調査、利用者やメーカーへの情報提供を行うとともに、新たな観測手法などの研究開発を推進。



AI時代を切り拓くサイバーセキュリティ

AIを活用し、セキュリティ対策に有用な情報をリアルタイムに導出する「AI for Security」と、AIモデルやAI搭載システムの安全性を検証・評価する「Security for AI」の研究開発を推進。

04



ユニバーサルコミュニケーション分野

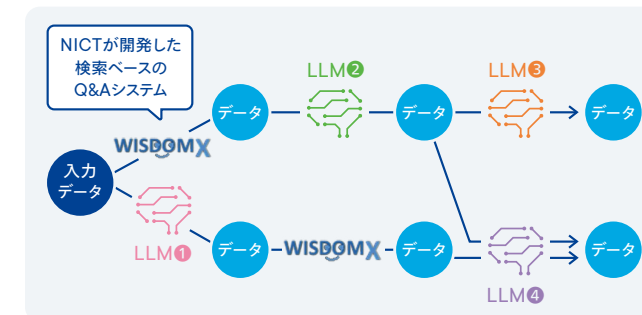
AI複合体技術／マルチモーダルAIコミュニケーション技術

ユニバーサルコミュニケーション研究所

AIでより高度で豊かなコミュニケーションを可能に

ユニバーサルコミュニケーション研究所では、言葉・文化の違い、空間の隔たりといった“コミュニケーションの壁”による課題を解決するAI技術やXR技術などの研究開発を行っています。その中核となるのが、日本語や日本文化・社会の文脈を深く理解する大規模言語モデル (LLM) や様々なAIを組み合わせたAI複合体技術と、音声・画像・映像・センサーデータなどを統合的に扱うマルチモーダルコミュニケーション技術です。人は状況を理解する際、相手の言葉・表情・文化、周囲の環境、社会

的背景などを総合的に判断しています。NICTではこの理解のあり方を手本に文脈や状況を柔軟に捉え、人の判断や行動を支援し、離れた場所においても豊かなコミュニケーションを可能にするAIの研究開発を実施しています。同時に、多様なAIを用いてAI自身の振る舞いを評価・改善する仕組みを研究開発し、海外製のAIが普及する中で、日本の文化や価値観と調和した安心・安全なAIによる社会課題解決を目指しています。



AI複合体技術

LLMの出力の適切さを自動評価する能動的評価基盤を支えるコア技術であり、LLMも含めた多様なAIが並列非同期で動作し、AI同士が情報を共有しながら、単体のLLMでは到達できない信頼性、創造性、多様性に富んだ出力を可能とするための技術。



マルチモーダルAIコミュニケーション技術

言葉の壁だけではなく、文化の壁やリアル・バーチャルの壁も超え、人と人の相互理解を促進するために、テキスト、画像や映像など異なる種類のデータを駆使し、言語のみならず動作や所作などの非言語情報も翻訳、伝達を実現するための技術。



05



フロンティアサイエンス分野

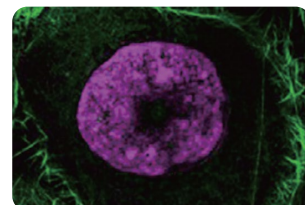
先端ICT基盤技術／フロンティアICT技術
バイオイックループICT基盤技術／脳情報通信基盤技術

未来ICT研究所

先端的・基礎的な研究を通じて、ICTの未来を「拓く」

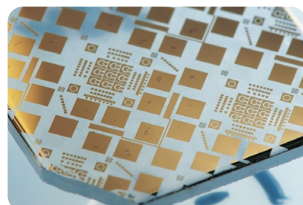
未来ICT研究所は、情報通信技術（ICT）の新しい地平を「拓く」ことを理念に据えて、デバイス、材料、量子、バイオ、脳情報に関する先端的・基礎的な研究テーマに取り組み、豊かで安心・安全な未来社会を支えるICTの基礎となる新たな概念や枠組みを形成していきます。一方、ICTの発展は生活を豊かにすると同時に、ネットワーク上の情報の多様化や情報量の急増、それに伴う消費電力量の増加、セキュリティリスクの拡大、希少資源の供給問題などの課題を発生させ

ることも明らかになっています。こうした課題を根本的に解決するには、今使っている技術の延長ではなく、まったく新しい考え方や学術的原理などに基づいた新たな技術、材料、手法、さらにその先にあるイノベーションを生み出すための研究が求められます。NICTでは、10年後、20年後の未来社会における革新的なICTパラダイムの創出を目指して、基礎レベルに立ち返り、長期的な観点から、幅広く段階的な研究開発を進めています。



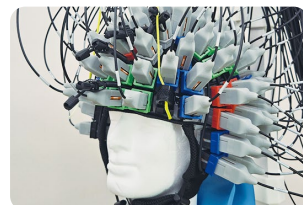
バイオイックループ
ICT基盤技術

生物を包含する次世代ICT基盤を構築するため、生体情報の取得や処理、インターフェース技術に関する研究を通じて、人や環境に寄り添う情報通信技術を創出。



先端ICT基盤技術

テラヘルツ帯無線通信の実用化に向けたデバイス開発や極限環境通信デバイス開発、量子鍵配送ネットワークの安全性向上や高度化、量子インターネットの実現に資する基盤技術を研究。



脳情報通信基盤技術

人と情報通信をシームレスにつなぐため、脳活動や行動、心的状態に関する情報の計測・解析と、情報通信技術の融合により、人間の脳機能への理解を深め、人に寄り添う新たな情報通信の実現を目指す。



フロンティアICT技術

ICTの新たな領域に挑戦する先端的研究として、超伝導ICT技術、ナノ機能集積ICT技術、深紫外光ICT技術といった新奇技術による先駆的なICTデバイスを開発。



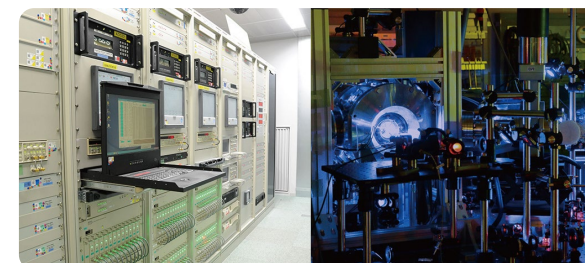
公的サービス

NICTは最先端のICT研究の開発成果を活用して、社会基盤を支えるための様々なサービスを提供しています。



日本標準時

日本標準時は、電波時計やNTPなどにおける基準の時刻として広く日本国内で利用されています。NICTは、様々な原子時計を組み合わせることで正確に日本標準時を生成し、標準電波やインターネットで配信するとともに、その高精度化を進めています。



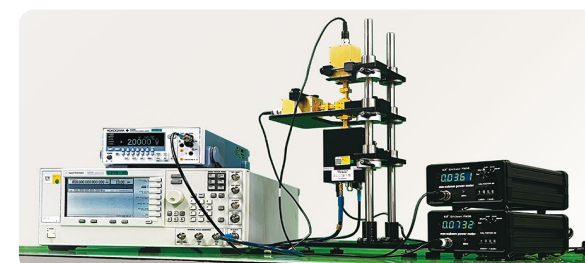
宇宙天気予報

太陽表面で太陽フレアが発生すると、電磁波や放射線、電気を帯びたガスが地球に到達し、通信や衛星などに障害を起こすことがあります。こうした宇宙環境を常時監視・予測し、宇宙天気予報として毎日配信するとともに、その技術の高度化を進めています。



無線設備用測定器の較正

無線局免許制度において求められる無線設備の点検・検査の信頼性を確保するため、各種測定器の較正サービスを提供しています。電波法に基づく較正の基準を担う機関として、周波数標準器や高周波電力計を高精度に較正し、電波の公平かつ能率的な利用に貢献しています。



サイバー演習

社会のサイバーセキュリティのレベルを高める取組として、実践的サイバー防御演習「CYDER」を実施しています。NICTの技術的知見と大規模計算環境を活用し、国の機関、地方公共団体、重要社会基盤事業者などを対象に演習サービスを提供しています。



ICT人材育成

セキュリティ技術の研究開発にイノベーションを起こせる若手人材を育成する「SecHack365」や、未来の科学技術として注目される量子ICTを担える人材を育成する「NICT Quantum Camp (NQC)」などの人材育成プログラムを実施しています。



01 レジリエントICT
基盤技術

いつでも柔軟に対応する情報通信基盤を開発

レジリエントとは、「強くてしなやか」という意味です。平常時から被災時・障害時まで、状況変化にしなやかに対応し続ける「フェーズフリー」な情報通信基盤の実現を目指した研究開発を行っています。障害リスクに基づきロボット移動経路や通信経路を自律的に迂回させる技術、自然災害を迅速に検知するセンサ及び解析技術、災害関連情報を確実に収集・配信する技術などの研究開発と社会実装を、他機関と連携して進めています。


02 Beyond 5G
アーキテクチャ構成技術

サイバーとフィジカルを結ぶプラットフォームを構築

サイバー空間とフィジカル空間の高度な融合を実現する情報通信プラットフォームの構築を目指し、産業分野を超えたシステム間連携を可能とするアーキテクチャ構成技術の研究開発を行います。また、ミリ波・テラヘルツ波による超高周波IoTと時空間同期を核に、社会課題の解決や新たな価値創出につながるBeyond 5G時代のシステム・サービスの実証研究を推進。さらに、産業用機械に安心して利用できる無線技術について、研究開発から標準化までを一体的に進めています。


03 テラヘルツ波ICT
プラットフォーム技術

未来を支える超高速・大容量通信の実現を目指す

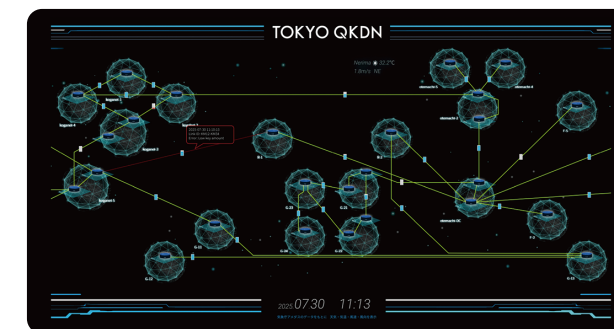
テラヘルツ波は、波長が非常に短く(3mm~30μm程度)、直進性の強い電波で、超高速・大容量通信を実現する可能性を秘めています。NICTでは、テラヘルツ波を活用した通信技術及びテラヘルツ波の安全性評価技術の研究開発を推進しており、300GHzによる映像伝送実験に成功しています。また、周波数割り当てをはじめとする国際標準化活動を推進。さらに、テラヘルツ波を使ったりリモートセンシング(遠隔測定)の研究開発も進めています。



04 グローバル量子セキュアネットワーク技術

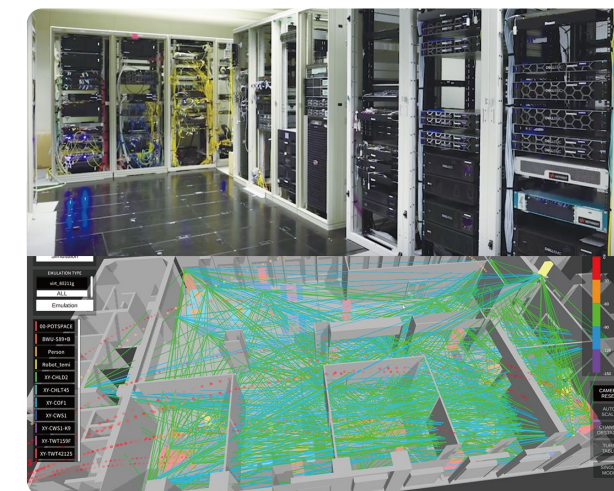
量子を活用した安全な通信・データ保管を実現

量子を活用した「どんな計算機でも解読不可能な暗号通信を実現できる量子鍵配送ネットワーク技術」と「データを安全に保管できる量子セキュアクラウド技術」の研究開発や実用化に向けた社会展開を推進。また、現在広く使われている情報ネットワーク技術との融合や、人工衛星を利用した量子鍵配送技術の長距離化を進め、世界中で量子を使った安全な通信ができる社会の実現を目指します。


05 Beyond 5G時代の
テストベッド構築技術

新たな通信システム・サービスのための実験環境を構築

Beyond 5G時代の通信システムや応用サービスの開発・検証が可能なテストベッド(実環境に近い実験環境)を構築するための研究開発を行います。サイバー空間上でフィジカル空間を仮想的に再現する技術、実環境を高精度かつ大規模に再現するネットワークエミュレーション技術、通信と計算処理を統合する技術の研究開発を通じて、NICT内外の多様な技術を取り込んだ、最先端技術の開発・検証を支えるテストベッドの実現を目指します。


06 先端ICTデバイス
開発基盤技術

先端的なICTデバイスの研究開発拠点を提供

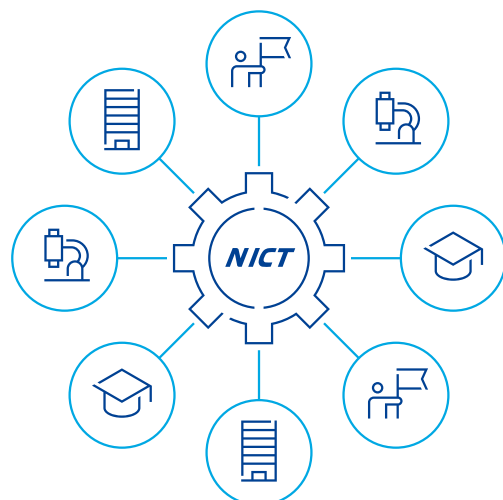
先端的なICTデバイスを研究開発するための安全かつ効率的なクリーンルーム施設を、オープンイノベーション拠点として運営・提供します。異なる材料系、異なる素子仕様に対応したデバイス加工や計測が可能なデバイスラボの運用を通じて、高度な技術ノウハウを創出・蓄積し、そのノウハウをデバイスラボの機能強化に生かします。



01 / イノベーションハブ

産学官をつなぐイノベーションの中核拠点

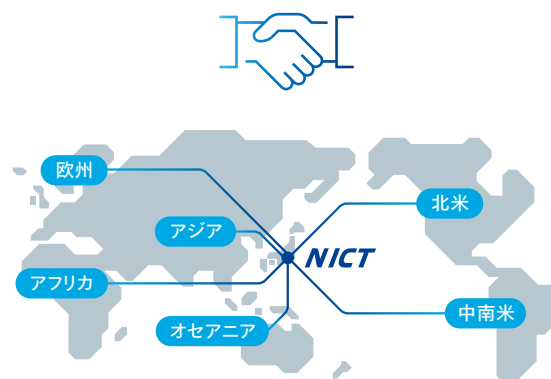
NICTが保有する研究施設・設備や研究から生み出された豊富なデータを企業や大学などの外部研究機関に提供し、我が国発の技術のイノベーションを加速させます。また、社会・産業・地域の課題解決に向けて、研究成果を広く共有し、社会実装を推進します。産学官をつなぐイノベーションの中核拠点として、人と技術、アイデアとニーズを結び付けるとともに、知的財産を活用した新たな価値の創出を通じて、日本のICT産業の発展と豊かなデジタル社会の実現に貢献します。



02 / グローバル研究戦略

研究成果を世界の価値へ

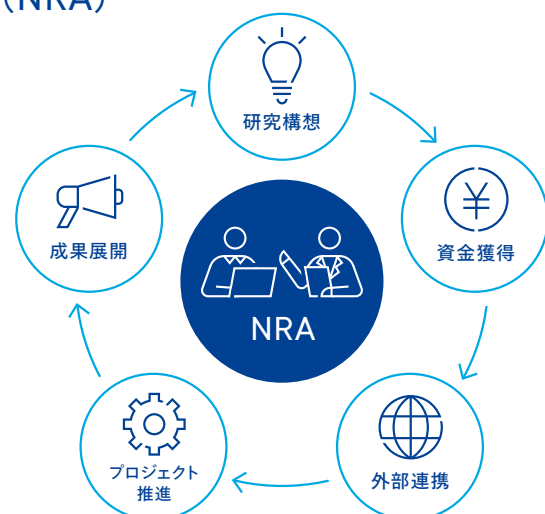
グローバル研究戦略として、研究成果を世界へ展開し、国際連携や標準化、社会実装を通じてグローバルな価値創出を目指します。研究分野や国・地域の特性に応じた戦略的な国際連携を推進し、グローバルな研究ネットワークの形成と研究成果の国際展開を通じて、NICTの国際的なプレゼンス向上とグローバルリーダーシップの確立に貢献します。



03 / NICT Research Administrator (NRA)

研究者と伴走しイノベーションの創出に貢献

NRAは、研究開発成果の技術移転や、研究開発活動の企画・マネジメントを推進する専門人材です。研究の全体像を俯瞰的に把握し、研究者と伴走しながら、NICT内外の関係者との連携を円滑に進めます。それにより研究開発に必要な資金の獲得、プロジェクトの推進、成果の展開などを支え、プロジェクトの成功、ひいては、研究開発力の底上げとイノベーション創出に貢献します。また、企業、大学、研究機関、行政機関と連携し、研究成果の展開先や活用方法を共に構想することで、NICT発の研究開発成果を社会実装や新たな産業・サービスの創出へとつなげます。



ファンディング

NICTは次世代ICTの研究開発を技術と資金で支援します。

研究開発支援と国際連携で6G時代を先導

NICTは、次世代の情報通信インフラ「Beyond 5G」の研究開発プロジェクトについて研究公募を行い、優れた提案をした民間企業や大学などに研究資金を配分（ファンディング）しています。具体的には、オール光ネットワークや非地上系ネットワーク（NTN）、セキュアな仮想化・統合ネットワークなどの技術分野を中心に、我が国の国際競争力強化や経済安全保障の確保に向けた研究開発を推進しています。

さらに、2030年頃の6G（5Gの次世代）の実現に向けた国際標準化活動が活発化する中で、米国、欧州などの主要な国・地域と日本との国際共同研究のプロジェクトを立ち上げ、グローバルな協力関係の構築を強化しています。

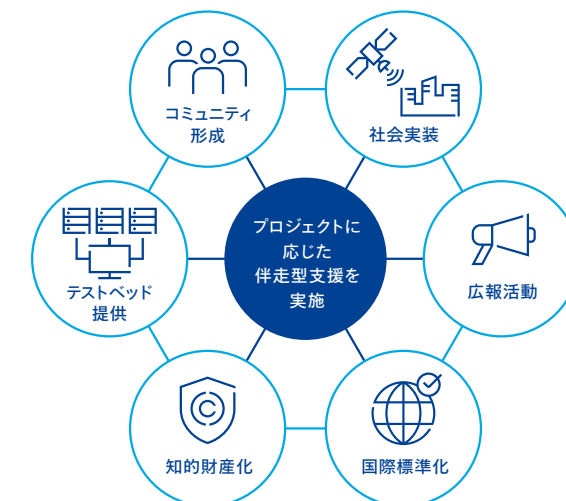


伴走型支援を通じて研究成果の社会実装を加速

これまでのファンディングにより、耐災害性に優れる衛星や無人飛行体を活用した通信技術（5G-NTN、HAPS等）の世界初となる技術確立や、ICT分野の標準化機関（3GPP、ITU-R等）における国際標準化を実現してきました。

今後もBeyond 5Gの社会実装や海外展開を含む研究成果の最大化のため、NICTの人的ネットワークを生かしながら総合的な支援を行うとともに、個々のプロジェクトの状況に応じて知財化・標準化アドバイザーの派遣や幅広い広報活動などによる伴走型支援を展開していきます。

また、NICTでは、スタートアップや中小企業、通信業界以外の企業などにも幅広く支援を行っており、国内外のコミュニティの形成を図りながら、ファンディングを通じて新たな産業分野の創出に貢献します。



Beyond 5G (6G) 基金事業

- ☒ **社会実装・海外展開志向型戦略的プログラム** 我が国が強みを有する技術分野を中心とし、社会実装・海外展開の実現に向けて、研究開発プロジェクトを実施
- ☒ **要素技術・シーズ創出型プログラム** 社会実装まで一定の期間を要し、中長期的な視点で取り組む要素技術の確立や技術シーズの創出のための研究開発を対象
- ☒ **電波有効利用研究開発プログラム** 周波数の有効利用に資する技術の研究開発を対象



“N”について

表紙に使われている公式キャラクター

“N”は、NICTが手がける様々な技術が組み込まれた“近い将来に開発される多機能パーソナルAI”という設定。生成AI・同時通訳・高性能通信・サイバー攻撃対策ツール等の機能を持っています。

